

1970. 2.24



No. 133

2月号

壬生町政だより

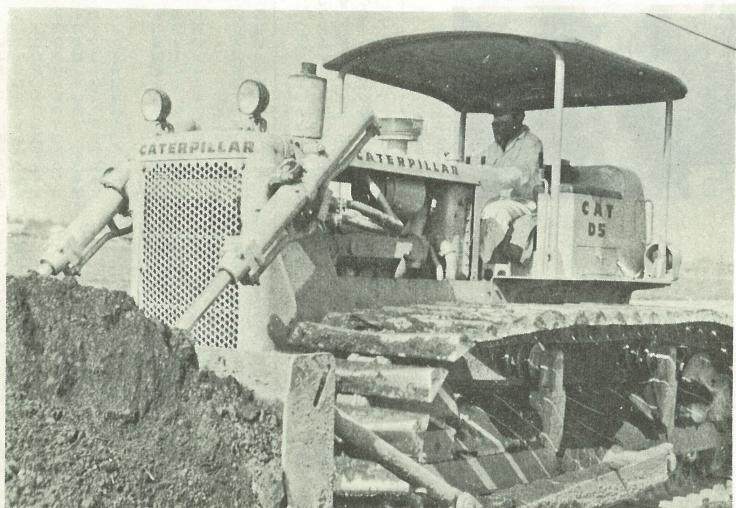
住民登録人口	
昭和45年2月1日現在	対前月比
総人口	25,549人
男	12,614人
女	12,935人
世帯数	5,467世帯
	24世帯増

発行所 桜木県壬生町役場

(毎月24日発行)

昭和34年9月30日第三種郵便物認可

一部 5円60銭



生まれ変わった藤井地区の水田

昨年に引き続き、2カ年の総事業費91,860千円を投じた藤井地区の水田は、天候に恵まれ、また地元関係者の協力によって、完了まじかになり、最後の仕上に入りました。

昭和44年11月から県道の南側約62.6ヘクタールの水田の基盤整備を行なっています。

完成は、3月25日の予定で、2カ年の基盤整備事業がこれで終るわけです。

45年度には、いよいよ経営近代化施設事業を行ない、コンバインの機械を始め、それに次いで農機具、格納庫、穀類乾燥調整施設、野菜集荷所の施設事業を行ないます。

答　お尋ねの如きは、河川の治水と農業生産の問題であります。河川の治水は、河川の排水を目的とするもので、主として、河川の氾濫による被害を防ぐためのものであります。一方で、農業生産の問題は、農地の灌漑や排水、土壌改良等の問題であります。これらの問題は、密接な関係があると言えます。

三月七日から三月十三日まで
「春の火災予防週間」がながな
れます。毎年春先は、空気が乾燥して
火災が発生しやすくなる季節です。
やさしい季節です。火災の取り扱い
には十分気をつけましょう。
昨年、月から現在までの事件の
火災からの玉生町が発生して
おります。このようないやな火
災による火災はほとんど人災
によるものが多く、少しの注意
で防げます。一人一人が防火意
識を身につけることが大切です。
火災や火事などを毎日して
いる。これの火災の原因は
みる気のゆるみからです。
火は悲しいものと認識しまし
ょ。

春の火災予防週間

3月7日～3月13日 災害予防週間が行なわれます。先は、空気が乾燥で火災が起きやすくなり、火を引きやさしくして、木炭を買います。から火を取り扱いには十分気をつけましょう。昨年、木工件の火災が工場から発生しておりました。このよな火灾の原因は、たゞ

づくりに 懇談会ひらく

昭和四十五年度の予算算定成時期になり、限られた予算をなさんから、町政への意見を聞き、できる限り町政に意見を反映して、四十五年から四十六年にかけては、このように政懇談会を開いたのです。どうか気恥じに冗談をお願いします。

問1　玉生町では、最近各学校でスポーツが盛んになりましたが、これが

答1　この説の通り父兄負担の軽減を図るために昭和四十四年度にも計上されましたので四十五年度も計上されました。このことは、昭和四十五年度には是非とも計上してほしいです。

② 各学校の学業路を完全舗装するよ

う努力を重ねてまいります。

③ 地域的な問題などを考慮して要望にそいたいと思います。

老人作務 田中 仰 伊藤 佐助 伊藤
と三者に係る問題に關する意見
ある。県の只今の方針としては國
は保はれて健全金融政策を進め
業はさて財政健全化政策を実行
とのことです。今後参考意見
として十分参考にします。

② 幸い生町会では企画委員会
がありますので、長期振興計画
の中で申請して、町議会の承認を
得て総合計画を立てたいと思
ふ。部落の振興上、部落公民館は
なくてはならないもので、し
たがつて、この部落公民館の建
設費用は部落と町両方に負担し
ます。非常に無理のため是非とも補助
されたい。舗装するにも排水
水路を元にやつてもらいたい。
学園内の地盤浸漬が進んでくる

町政懇談会は一月二十八日午後二時から中央銀行で各種職務の役員および主催者である佐藤町長はじめ議長、取扱、教育長そのほか各課長を含め約三百三十名が集つて開かれました。

また、オフサーカーとして、議會議員佐藤市長と町議会議員の星議長はじめ多数の議員が出席され、何かと助言されまし

た。

この町政懇談会が開かれた目的は、新年度の予算編成時期にあたり、町民のみなさんのいろいろな希望を基準に昭和四十五年度の予算を立てるに付合してみなさんの要望に耳を貸す、そして去る町の発展のために開かれたものです。

要望には、道路問題、社会福祉問題、農業問題、教育施設問題などが多く要望されました。

この別類で中学校にスポーツツクイ興奮をして子育て美化する考え方があ
るかどうかがきつい。



定期種痘を行なわれます

受けよう

三月中に定期種痘を行なわれます。今回の種痘を受けなければならぬ人は、昭和四十四年一月一日から同年十二月三十日までに生まれた人です。

二、第二期 今年四月に学校へ入る予定年令に達している人

三、第三期 今年四月に中学校へ進む予定年令に達している人

四、定期種痘を行なわれるため、現在生町にては赤など協力し、次のおり救援金を募集中です。

一、第一期 昭和四十四年一月一日から同年十二月三十日までに生まれた人

二、第二期 今年四月に学校へ入る予定年令に達している人

三、第三期 今年四月に中学校へ進む予定年令に達している人

四、定期種痘を行なわれるため、現在生町にては赤など協力し、次のおり救援金を募集中です。

二、熱のある人や皮膚病のある人は翌年に延期してください。なお、くわしくは後日お知らせ下さい。

アーラの

難民を救おう

ご承知のとおり、今回アーラの崩壊に伴い、多くの難民が飢えています。

生町では赤など協力し、次のおり救援金を募集中です。

とおり救援金を募集中です。

のため、皆さんの暖かいご協力を切らしてお願いします。

要があります。

これら難民を救うため、現在生町にては赤など協力し、次の

おり救援金を募集中です。

とおり救援金を募集中です。

しない場合は、その効力を失つてしまになりますので、早急に請求の手続きをしてください。



112

神をもつ血族の集団(氏の上と氏人)であったが、次第に何ら血族關係のない人民もその部に属して氏人と同様、部曲(かきべ)の民として氏の上の命に従い、團結を固めた。

古代日本の氏の上の上と大和朝廷があり、國家組織ができたのが、全国數多の氏の上の上と大和朝廷が、勿論氏族制は専門的といなが、古代日本の政治機構であった。

一、母親等が家庭外労働のために保育ができない家庭

二、母親等が日常の家事以外の仕事を児童とはなれてしまうことが普通の家庭

三、母親のいない家庭

四、出産および病人の看護等のため保育できない家庭

五、家庭の災害で児童の保育でのきかない家庭などです。

希望者は保育所または民生課で申込書をもらって申請してください。

自治時代から、仕事が専門的に自足の時代から、仕事が専門的に分化してきました。

例えばより精巧な石鍛を作り、農耕を基本として農耕を怠らなければなりません。

自足の時代であった。

しかし、世の進むにつれて自給各氏にはその家格を示すため、朝廷からもらつた臣とか連とか君

が、永い間には重要な役を負つた。

朝鮮からもたらつた臣連とか君

が、永い間には重要な役を負つた。

農耕が断行されるに至つた。

農業は、即ち物部氏蘇我氏

が、その仕事に習熟し技術が進歩する所から、古墳時代になつてから

作ることを專業とするもの等であります。(羽生田の如く)

しかも代々同じ職業をつぐこと

が、その仕事に習熟し技術が進歩する所から、古墳時代になつてから

は、集団的でしかも世襲的な職業が

できてきた。これが氏族部民制で

普通氏族制度といふ。

氏族制度ではその首長に一人の

氏の上において部民を統率した。

元の規定により三月末までに請求

の権利をもつた。

氏族部民制には立地条件とい

うある相違があるものの、封建時代の大名幕府朝廷の関係に似た所が

あるので、それを次回に述べた

い。(福田)